

ツバメの巣作りの姿もあちこちで見かけるようになりました。鯉のぼりも、爽やかな風にはためいているのを目にします。

現在会員登録数 3,535 人さま。次号は 5 月 20 日発行の予定です！

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

4 月で開設 1 周年になりました。

子ども向けに紹介する「YouTube 版 本の海大冒険」(絵本編・読物編・YA 編・科学編、各回 3~5 分)は毎週金曜日に、大人向けに紹介する「新刊子どもの本 ここがオススメ！」(各回約 30 分)は毎月 10 日に配信しています。

ぜひご覧ください。チャンネル登録もよろしくお願いします。

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 子供の読書活動優秀実践団体の文部科学大臣表彰

大阪府教育委員会からの推薦により、令和 3 年度の子供の読書活動優秀実践団体として、当財団が表彰されることになりました。表彰式は、4 月 23 日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される「子ども読書の日」記念子どもの読書活動推進フォーラムにおいて行われます。

◇文部科学省の報道発表ページ

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00542.html

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のために 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間 1 万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----■
【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『つくしちゃんとおねえちゃん』 itoumiku/作 丹地陽子/絵 福音館書店
2021年3月 対象年齢：小学校低学年以上

あらすじ：小学2年生のつくしと、2つ年上のおねえちゃんのかえでとの日常を切り取った5編の連作集。つくしが、優秀でまじめで「グズはきらい」というおねえちゃんのことを語る「いばりんぼう」、つくしのせいで二人が学校に遅刻しそうになる「あと五分」、かえでがドッジボールで苦勞しているのをつくしが知る「ドッジボール」、かえでが友だちのお誕生日会のあと泣いているのをつくしが見る「なみだ」、つくしがお祭りに連れていってもらえなくて、かえでのノートの表紙に「ばか」と書く「ごめんなさい」が収められている。

T：ひとりっこのぼくとしては、2歳違いの姉妹関係を新鮮な気持ちで読みました。

Y：2歳年下の妹がいる私は、「あるある」と思いながら読みました。どんなところがおもしろかったですか。

T：つくしの視点から、まずは、かえでが勉強のできる立派なおねえちゃんだと描かれていて、そこからだんだん、つくしがかえでの弱さやしんどさを知っていく過程が興味深かったです。

また、かえでが重い荷物を全部持って帰ったというエピソードでは、つくしが母親に、自分も荷物を持つと言ったと告げる場面に、つくしがかえでと対等になりたいと思っている様子が読み取れました。

Y：自分の姉妹関係を思い出すと、妹に傷つけるような言葉を言うてしまうこともあって、かえでがつくしのことを「グズ」というのもリアルだと思うのですが、この作品のどこかで、直接的でなくても、姉妹がこのことを突き詰めて考える時間があればよかったのではないかなあと少し思いました。それは、行間から読めるとも、読者にゆだねられているとも考えられるかもしれません。

そして、かえでが妹に厳しくするのは、右足を少しひきずって歩くかえでが、自分は人に遅れたくないと必死でいるからこそそのことばだということがわかるのですが・・・。

T：かえでの人物像を明らかにするための工夫なのでしょう。

Y：各章が事件の最初から最後までを書くのではなく、つくしから見えている場面の連なりで構成されています。鮮やかな切り取られ方にいとうさんの巧さを感じました。

T：そういう描かれ方から考えると、視点人物のつくしと同じ小学2年生ぐらいの子どもにも読んで欲しいけれど、かえでの学年の4年生ぐらいの子どもが読むと書かれていない部分をより深く考えることができるかもしれません。

また、この作品は挿絵が入ったことでドラマ性がより高まっています。たとえば、お祭りに行けなかったつくしが一人で部屋にいるページは寒色が使われ、左ページの奥に小さく描かれて孤独を表現し(P.56-57)、そこから抜け出したときには暖色が使われる。

Y：構図にもとても工夫があると思いました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第68回「月夜のけだもの」

金銭によって成立する教育

今回は、「月夜のけだもの」を取り上げます。

〈青じろい月の明り〉の晩、〈わたくし〉が獅子の檻の前にあるベンチに腰掛けると、〈そこらがぼうっとけむりのようになってわたくしもそのけむりだか月のあかりだかわからなくな〉ります。すると、いつのまにか獅子が立派な黒いフロックコートを着て立っており、〈もうよかろうな。〉とつぶやいて夜の見回りに出かけます。

〈太い金頭のステッキ〉をついて見回りに出た獅子の前に、さまざまな動物があらわれます。まず、頭に〈聖人のような立派な瘤〉を有する者の弟子になりたいけれど、その名前が思い出せない白熊。獅子は、象を探して急いで駆ける白熊を呼び止め、その名前を教えます。

白熊が去ったあと、今度は罰せられても悪事をやめない狐が獅子の前に飛び出します。狐は獅子を恐れ、歯をカチカチならして青い火花を散らし、獅子は狐に偽（うそ）をつくなとたしなめます。

次に登場するのは、獅子の声に驚いて起きた呑気な狸です。狸は、獅子に立ち聞きをしていたと責められますが、何を聞かれても〈そうかな〉と呑気に答え、無罪になったうえに獅子からご馳走に呼んでやると言われます。

最後に、弟子となった白熊を追って象がやってきます。獅子は象に対し、白熊ではなくて狐の教育を依頼し、その対価としての〈教育料〉を〈一ヶ月八百円〉払うことにします。みんなを帰したあと、獅子は葉巻をくわえて十日の月を眺めます。

象に自ら〈弟子〉入りした白熊と、獅子の命によって象に〈教育〉されることになる狐。旧来の金銭を必要としない師弟関係と、〈教育料〉という金銭を媒介とするやや近代的な教育には、明らかに差異があるようにも思います。が、獅子が象に求めた狐の教育は、〈うそをつかない〉程度にすること、〈鼻を無暗に引っぱらない〉ことであり、象が行ってきた師としての教えと内容はさほど変わってはないのかもしれませんが。名前だけ〈教育〉という立派な看板にかけ替えただけともいえます。しかし教育という名のもと、聖なる存在としての象もさり気なくお金を受け取っているのは、旧来の師弟関係が変容し、金銭を媒介しないと立ちゆかない人間社会を諷刺したかったからかもしれません。そして、それがすべて夢であったという結末は、動物たちの姿から人間および社会を相対化するものといえます。（ペ吉）

（本文の引用は、筑摩書房版『宮沢賢治コレクション』5によりました。）

《3》子ども本の珠玉のことば 22

アーサーが おこると
ちきゅうに バリバリ ひびがはいて
たまごみたいに こわれてしまった
「もう じゅうぶん」おばあさんが いった
でも まだまだ

(『ぼくはおこった』ハーウィン・オラム/文 きたむらさとし/絵・訳 評論社 1996年)

アーサーは、テレビの西部劇に夢中になっているときに、おかあさんに「もうおそいから ねなさい」と言われて「いやだ」と言います。すると おかあさんは「おこりたければ おこりなさい」といったので、アーサーはおこりません。

この絵本はアーサーがいかにおこったかが、絵と文で想像豊かに描かれています。アーサーがおこると、「いなずまがはしり、ひょうが」ふります。おかあさんが「もう じゅうぶん」というと、嵐が起こります。次におとうさんが、「もう じゅうぶん」と言い、台風がやってきて、おじいちゃんが「もう じゅうぶん」と言います。そして、引用の文章になります。

繰返しの中で、アーサーの怒りが増長されていることがわかります。怒りを抱えているときに、大人に「もう じゅうぶん」などと言われようものなら、怒りが増長するのは当たり前。そのすさまじさで「ちきゅうに バリバリ ひびがはい」るのは、私自身も大いに共感しますが、子どもたちに読んでも、この場面を見ている子どもたちが笑い声をあげ、満足そうな顔、にやにや顔、不安そうな顔をしているのを見ると、この本を共有できてよかったとうれしくなります。

この場面の絵は、地球に本当にひびが入り、おばあちゃんは、ヘルメットをかぶり、宇宙服に身を包みながらも、平然と編物をしています。アーサーは無重力状態で宇宙に浮き、口元はいなずまの形で、猫が心配そうに見ています。

このあと、アーサーは怒りが絶頂になり、猫に誘われるようにして、ベッドに入り、眠りにつきます。そして、多くの読者が予想もつかないような結末が待っています。この本を読むたびに、「怒り」は人間にとってとても大切な感情だということを再確認しています。(Y)

《4》 行って来ました！

大阪・心齋橋の Yoshiaki Inoue Gallery で、5月8日まで開催されている「おおきい ちいさい 元永定正展」に行ってきました。

画家で絵本作家の元永定正さんの没後10年の節目に、絵本『おおきいちいさい』(0. 1. 2. えほん 福音館書店 2011年)からヒントを得て、絵画、立体作品、お皿などが展示されています。似ているけれど色や形が少し異なる、大きな作品と小さな作品が並べられており、そこにさまざまな物語が感じられます。

展示されている作品は絵本の原画ではありませんが、『もけらもけら』(山下

洋輔/文 中辻悦子/構成 福音館書店 1990年)や『ころころころ』(福音館書店 1984年)などの絵本に出てきた色や形に似ているものがたくさんありました。どの絵も色が鮮やかで、色の変化によって絵から光が出ているように見える作品もあります。形がユーモラスで、生きて動いているように見えます。

円柱の先がくるんと丸まっているような形の絵は、私にはいろいろな表情の顔に見え、大きい人と小さい人が寄り添っているように感じました。青い空に鳥がぷかぷか浮かんでいるような絵、雲から雨が降っているように見える絵、チョコレートの火山が噴火しているように想像してしまった絵など、どの作品もいろいろと思い浮かべて楽しみました。(K)

* Yoshiaki Inoue Gallery
<https://gallery-inoue.com/>

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 新刊書研究会「2020年子どもの本」

昨年出版された児童書を通して子どもの本の世界の一端に触れてみませんか。

講師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

日時：5月23日（日）13：00～16：00

会場：堺市立南図書館（堺市南区茶山台）

資料代：有料

主催：子どもの読書と教育を考える会

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『つくしちゃんとおねえちゃん』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.128 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

公園や遠くの山々はいま、まさに萌黄色です。頻繁な換気の励行も苦にならないような陽気になってまいりました。多くの規制は続いています。季節は春爛漫から初夏になりつつあります。休日は、景色を眺めながら読書をし、物語の世界に浸りたいと思います。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
